

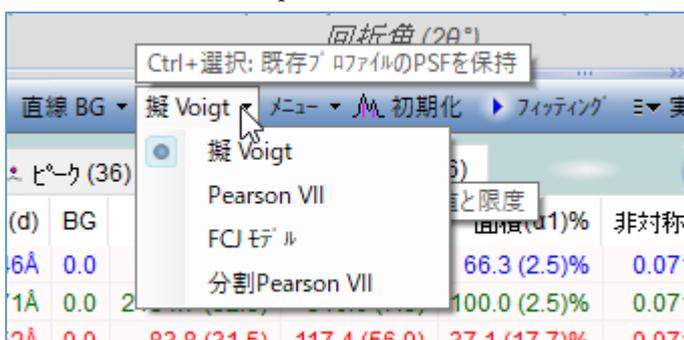
## JADE の使用例(3) プロファイルフィッティング 2 詳細編

### 手動でプロファイルフィッティングを行う場合

#### ● プロファイル関数の選択

プロファイルフィッティングを行うときに、プロファイル関数を以下の候補の中から選択できます。一般的に、尖ったピークトップと長い裾野を持つピークには Pearson-VII が適しています。一方、より丸みのあるトップを持つピークには、擬 Voigt(Pseudo-Voigt)が適しています。

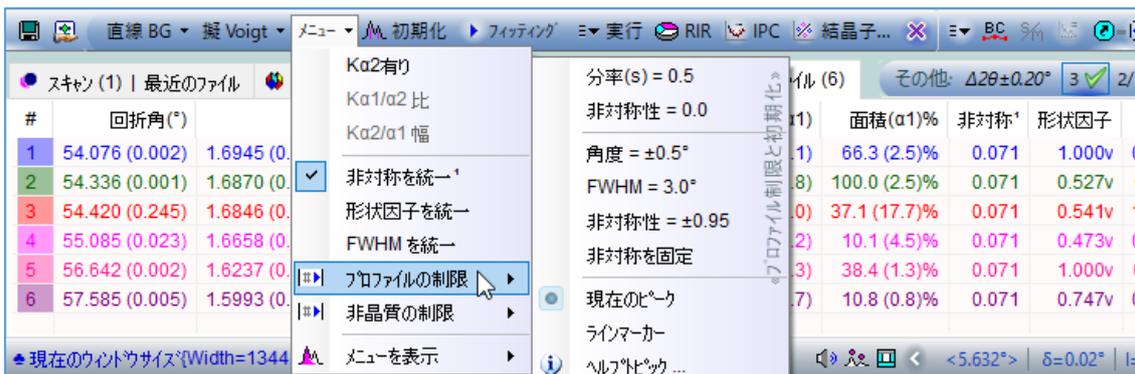
- ・ 擬 Voigt (Pseudo-Voigt)
- ・ Pearson-VII
- ・ FCI モデル (FCI-Model)
- ・ 分割 Pearson VII (Split-Pearson)



●パラメータの制約、固定、共有

プロファイルフィッティングのツールバーの「メニュー」ボタンから、フィッティングパラメータの数(自由度)を減らすことができます。例えば、同じセグメント内でプロファイルを制約をかけたり、いくつかのパラメータ(例えば非対称性のパラメータ)を共有することにより行えます。

具体的には、下図のように統一メニューからパラメータを共有する設定を行ったり、「プロファイルの制限」サブメニューでそれらのパラメータ範囲を制限することができます。



パラメータを固定する場合は、「プロファイル」タブのリストの中で1つまたは複数の対象となるプロファイルを選択、右クリックし、「変数を固定」サブメニューから設定できます。



●飽和ピークへの対処

イメージングプレートのようなデータソースから飽和ピークのフィッティングを行う場合、「面積%」より後ろの列で右クリックし、「平坦な頂部をスキップ...」を選びます。ピークトップの範囲を入力するダイアログが表示され、飽和ピークに対処できます。

